

加古川周辺における古レール使用鉄道構造物

J R西日本 鉄道本部西明石新幹線保線区 正 ○山本 功
J R西日本 鉄道本部施設部保線課 正 岡村康弘
J R西日本 鉄道本部加古川保線区 上石俊之

Railway Structures Made of Used Rails around Kakogawa Distvice.

by

I. Yamamoto, Y. Okamura, T. Ageisi,

概 要

J R山陽本線は、山陽鉄道によって1888〔明治21〕年11月1日、兵庫・明石駅間開業以来100年以上を経てきている。その間、様々な鉄道構造物が建設、改築され現在に至っているが、これらの鉄道構造物の中には古レールを用いた構造物をいくつか見ることができる。

その古レールも、関西地方の鉄道会社が発注したものが多いが、中には横浜鉄道といった遠隔地のものも見られる。また、初期はアメリカを中心とした外国からの輸入のみであったが、1910年以降は国産も見られ、1930年以降は国産のみとなっている。(加古川駅、輸入レール、国産化)

1. はじめに

J R山陽本線・加古川駅(写真-1)は、1888〔明治21〕年12月23日開業し、現駅舎は1905〔明治38〕年に旧西成線桜島駅として建設され1919〔大正8〕年に移築されたものといわれ、平屋で洋風の建物である。この加古川駅舎も、高架化により改築される計画もあり、こうしたことから今回この加古川駅を中心に、ホームの上屋や跨線橋の柱等に用いてある古レールの調査を実施した。

また、姫路駅や旧鍛冶屋線鍛冶屋駅においても貴重と思われる古レールを発見したので紹介する。

2. 古レールを使った鉄道構造物

古レールを使った構造物には、跨線橋やホーム上屋、柵、また短いスパンの橋桁等、様々なものに用いられている。

写真-2は、J R神戸線(山陽本線)加古川駅東跨線橋で、1907〔明治40〕年に建設され、1955〔昭和30〕年に全面改築されたもので、鉄骨として古レールが用いられている。記録によれば、改築前も鉄骨造だったようであるが、詳細は不明である。



写真-1 加古川駅

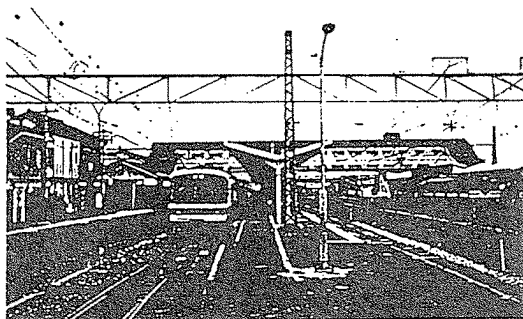


写真-2 加古川駅東跨線橋

ホーム上屋にも古レールが用いられており、加古川駅だけでも製造年により、写真-3（左側の低い上屋が1928〔昭和3〕年、右側が1953〔昭和28〕年建設）の下り線ホーム上屋のように古レールを曲げ、柱から一本で上屋を支える梁としたものや、写真-4（1955〔昭和30〕年建設）の上り線ホーム上屋のように切断したものを溶接により継いだものなどがある。

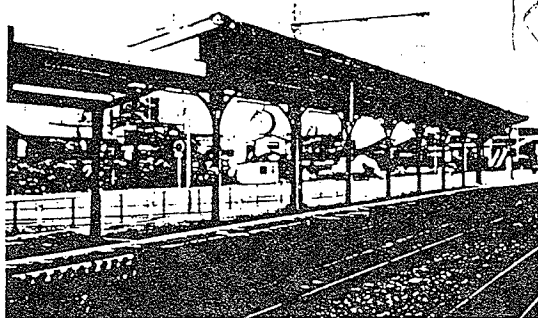


写真-3 下り線ホーム上屋



写真-4 上り線ホーム上屋

2. 加古川駅古レール

(1) KRUPP 1880

・・・・・・①

ドイツ、クルップ社、1880〔明治13〕年製であるが、発注者名も不明で、いつ頃、どこを経てきたものかわからない。下りホーム上屋の支柱に使用。拓本をとった箇所継目板の穴があり、KRUPPの最後のPの字が出ていない。（拓本-1）

K R U P 1880

拓本-1

(2) ILLINOIS STEEL CO SOUTH WKS | 1898 HANKAKU

・・・・・・②

アメリカ、イリノイ社、1898〔明治31〕年製で、阪鶴鉄道発注のレール。下りホーム上屋の支柱に使用。

(3) CAMEL S TOUGHENED STEEL. W. 1889 O.T.K SEC 350

・・・・・・③

イギリス、キャンメル社、1889〔明治22〕年製で大阪鉄道発注のレール。下りホーム上屋の支柱に使用。

(4) COLORADO SEC 763 VⅢⅢ 1917 OH

・・・・・・④

アメリカ、コロラド社、1917〔大正6〕年製で、下りホーム東跨線橋の支柱に使用。

(5) 37 S 2603 ⅢⅢⅢⅢ OH

・・・・・・⑤

37 S 2605 ⅢⅢⅢ OH

・・・・・・⑥

37 S 2606 ⅢⅢⅢ OH

・・・・・・⑦

八幡製鉄所（現新日鉄）製のレールで、神武紀元年号で表示されている。年号は西暦に直すと、2603→

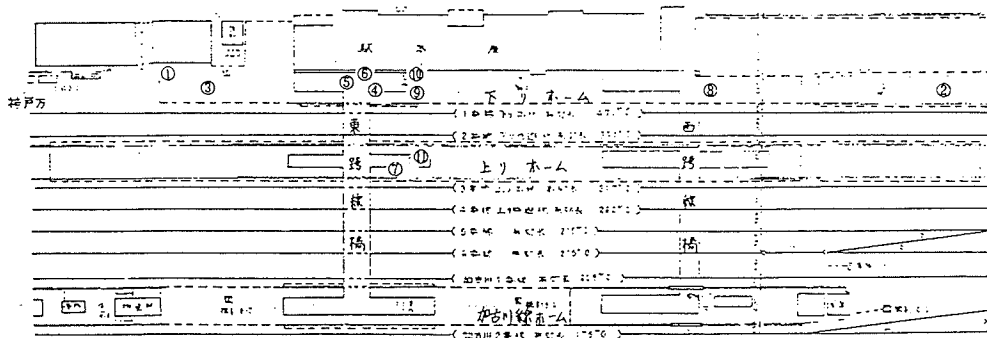
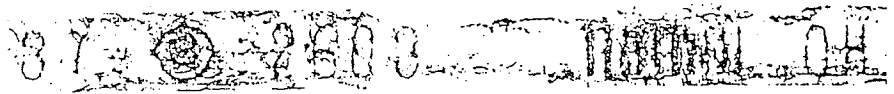
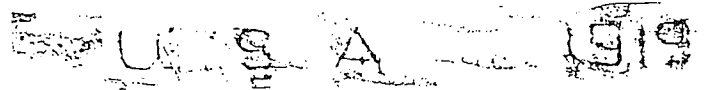


図-1 加古川駅平面図（レールのある箇所を①～⑪で記入）



拓本-2



拓本-3

1943〔昭和18〕年、2605→1945〔昭和20〕年、2606→1946〔昭和21〕年である。下りホーム東跨線橋の支柱に使用。2603、2605年製のレールは初めての発見のようである。(⑤→拓本-2)

(6) CARNEGIE 1897 ET II ⑧

CARNEGIE 1906 ET IIIIII YTK 60 A ⑨

CARNEGIE ET USA 1919 ⑩

アメリカ、カーネギー社、1897〔明治30〕、1906〔明治39〕、1919〔大正8〕年製で、加古川駅ではホーム上屋や跨線橋の支柱等に数多く使用されている。⑨は横浜鉄道発注のレールのようなのだが、どのような経路を経て加古川駅にきたのかは不明であるうか。(⑩→拓本-3)

(7) エ OH LACKAWANNA 750 2 700 1921 ⑪

アメリカ、ラッカワンナ社、1921〔大正10〕年製で、上りホームの東跨線橋の支柱に使用。

3. 加古川駅古レールの製造国・年別分類

加古川駅の古レールのうち標記の判読できる 103 本について調査した結果、図-2 ようになった。(単位：本)

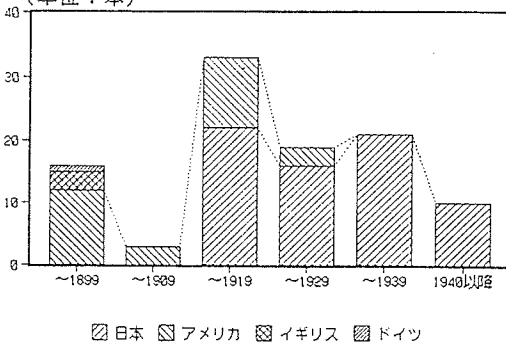


図-2 製造年・国別分類

このグラフより下記の点が明らかとなった。

7) 1909年までは、外国製ばかりであるが、1910年以降は国産も見られる。

イ) 初期のレールには、アメリカばかりでなく、イギリスやドイツなどヨーロッパからのものも含まれる。

ウ) 1940年以降は国産のみである。

エ) 輸入レールのうち、新しい年代のものはすべてアメリカ製であった。

また、表-1 は、各メーカー別に分類したもので加古川駅にあるのは、日本では1社、アメリカ5社イギリス2社、ドイツ1社の計9社の古レールである。

表-1 製造会社・年代別分類 (単位：本)

	~1899	~1909	~1919	~1929	~1939	1940以降	計
八幡製鉄所	日		22	13	21	10	66
カーネギー	米	12	3	4			19
イリノイ	米	1					1
デニソー	米			1			1
コロラド	米		7				7
ラッカワンナ	米			2			2
キャンメル	英	2					2
ボルコボーン	英	1					1
クルップ	独	1					1
計		17	3	27	13	21	101

4. 姫路駅

(1) CAMMELL SHEFFIELD TOUGHENED STEEL C 1885 P IRJ

イギリス、キャンメル社、1885〔明治18〕年製で播但線ホーム上屋の支柱に使用。発注者はIMPERIAL RAILWAY OF JAPAN である。

(2) BARROW STEEL SEC 188 1894 N.R.J

イギリス、バロー社1894〔明治27〕年製で、播但線ホーム上屋の支柱に使用。発注者の N.R.J という標記は不明である。上のように、IRJならわかるのだが。

(3) 6007 IRINOIS STEEL Co SOUTH WKS V-1897 STK

アメリカ、イリノイ社、1897〔明治30〕年製で、山陽鉄道発注のレール。播但線ホーム上屋の支柱に使用。

5. 旧鍛冶屋駅

(1) JSCo B 1881

第3次特定地方交通線として1990〔平成2〕年3月31日限りでバス転換された旧鍛冶屋線鍛冶屋駅の引込線の奥に敷設してあったレールで、製造所・発注者も不明である。今回、レール標記と断面を写したものを紹介する。

(図-3、拓本-4)

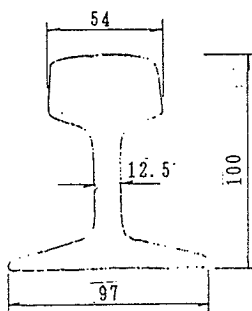


図-3 レール断面



拓本-4

6. おわりに

レールの製造および古レールの使用には、いろいろな経緯があり、研究の対象として興味深いものがある。

今回、調査した加古川周辺の鉄道構造物に用いられてる古レールを見ると、地元に近い山陽鉄道、阪鶴鉄道、大阪鉄道といった関西地方の鉄道会社が発注した古レールが数多く見られるが、中には横浜鉄道のように遠隔地から運ばれてきたものも含まれていることが判った。また、加古川駅にある古レールの輸入先を見るとアメリカばかりでなく、イギリスやドイツのものも含まれ、少なくとも1920年代まで輸入レールの時代が、継続していたことが明らかとなった。国産のレールは1910年代以降のものに見

られ、国産のみとなるのが1930年以降となることが判明した。

今回の調査は、加古川駅およびその周辺に限定したものであったが、古レールの製造年、製造者、発注者を定量的に整理することにより、レールの輸入から国産化に至る過程を、ある程度明らかにすることが示された。今後は、今回の不明部分を含めて継続調査しより完全なものにしていきたい。

今回の発表にあたり、協力いただきましたJR西日本・加古川保線区の皆様にお礼を申し上げます。

〔参考文献〕

- 1) 『日本国有鉄道百年史』1974年10月、日本国有鉄道
- 2) 西野保行・淵上龍雄『鉄道ビクトリアル、No. 329 ~331』「レールの趣味的研究序説(上)(中)(下)」1977年1月~3月、鉄道図書刊行会
- 3) 西野保行・小西純一・淵上龍雄『日本土木史研究 発表会論文集』「日本における鉄道用レールの変遷—残存する現物の確認による追跡—」1982年
- 4) 西野保行・小西純一・淵上龍雄『日本土木史研究 発表会論文集』「日本における鉄道用レールの変遷—残存する現物の確認による追跡(第2報)—」1983年
- 5) 太田幸夫『新線路』「レールマークに魅せられて」1987年10月、鉄道現業社